

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月12日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	スポーツ推進委員活動費		部	教育部				係	スポーツ推進係				
	[スポーツ推進委員活動事業]		課	生涯学習課				課長名	岩野 秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画	117 ページ				
	施 策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供						重要施策	☒ 該当			
		2	☐ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ			
		3	☐						実施計画	☐ 該当			
	事業種別	☐ 市単独 ☐ 補助対象 ☒ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	2			
開始年度	昭和 37 年度 ☐ 不詳				行政報告書		554 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	スポーツ基本法第32条、東大和市スポーツ推進委員に関する規則												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		市内におけるスポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整、市民に対するスポーツの実技指導及びその他スポーツに関する指導・助言を行う等の活動を行っている。										
	対象：誰を、何を対象としているか						目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	市民						①スポーツに興味を持ってもらう。 ②市のスポーツ行政に興味を持ってもらう。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか						活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	①定例会の開催 12回 ②スポーツ推進委員主催事業の開催 4回 ③市主催のスポーツ事業、その他主催事業等への従事 6回						スポーツ推進委員主催事業に参加した方の満足度は、非常に高く、市民に対して、スポーツを楽しめる場と機会を提供することができた。						
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度			令和3年度			令和4年度			
		年度目標値	%	-			-			50%			
		効果実績値	%	-			-			93%			
		目標値設定の考え方	「スポーツ推進委員主催事業の参加者へのアンケート結果」参加者の満足度50%以上										
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
事業費（実績）		円	1,744,333			2,126,033			3,121,082				
財 源		一般財源	円	1,744,333			2,126,033			3,119,082			
		特定財源（国・都・他）	円							2,000			
		（うち受益者負担）	円										
人 件 費 （目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.3			0.3			0.3			
		所要人数（再任用）	人										
		職員人件費（再任用以外）	円	2,514,000			2,475,000			2,448,000			
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	4,258,333			4,601,033			5,569,082				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	スポーツ推進委員事業では、アンケートを実施しており、参加者の満足度は非常に高く、楽しかったというご意見を多くいただいた。												

5	市民協働の取組		取組手法：				
	☐ 取り組んだ ☒ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）				
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
現在委嘱しているスポーツ推進委員は、いずれも経験豊富で、スポーツに関する深い関心と理解を持っている。引き続きこうした人材をスポーツ推進委員として委嘱したい。							
6	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 令和4年度のスポーツ推進委員事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、数年ぶりの開催となったものが複数あるが、どの事業も参加者が大きく減少することはなかった。				
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 事業費は、報酬、報償費、旅費、需用費、負担金補助及び交付金である。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けずに事業を行うことができたため、令和2年度、令和3年度と比較して、多くの予算を執行した。				
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果 ランク の 説明 と 方向 性	
	(1)	向上	維持	低下			
	効果 指標	向上	A	B	D		E
		維持	C	E	G		
		低下	F	H	I		
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。							
(4)効率性評価(さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。)							
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明： 定例会の開催する回数を減らしたり、スポーツ推進委員事業の類似事業を廃止することで、事業費を削減することができる。					
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☐ 大きい ☐ 小さい ☒ 不可能		説明： スポーツ推進委員は、スポーツ基本法を基に委嘱しているため、廃止することは不可能である。しかし、一部の事業の廃止、縮小をすることは可能である。					
7	(1)令和4年度に課題とした内容(「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記)						
	引き続き、連絡体制の構築強化を図り、スポーツ推進委員同士や事務局との情報共有を行う。						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
8	スポーツ推進委員同士の情報伝達は、携帯電話アプリを積極的に活用し、連絡交換しやすい体制の形成を図った。また、定例会以外においても、事務局から研修会や市の事業状況等について適宜情報提供を行った。						
	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)						
	引き続き、連絡体制の構築強化を図り、スポーツ推進委員同士や事務局との情報共有を行う。						
今後の 方向性	(1)今後の取組(「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)						
	事務局は、スポーツ推進委員と連絡交換しやすい体制の形成ができつつあるため、対面での会議の回数を削減を目指し、事業費の縮減を目指したい。						

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月14日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	スポーツ振興事業費		部	教育部			係	スポーツ推進係			
	[各体育大会選手派遣事業]		課	生涯学習課			課長名	岩野秀夫			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり					第五次基本計画	117 ページ			
	施策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション					複数施策	☐ あり			
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供					重要施策	☒ 該当		
		2	☐ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☐					実施計画	☐ 該当		
	事業種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）									
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	3	
開始年度	年度		☒ 不詳		行政報告書		555 ページ		新規・継続	継続	
実施の根拠 (法令・要綱等)											
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		市町村総合体育大会及び都民体育大会への選手派遣委託等に関する事務を行う。								
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	市民				各大会へ参加を通じてスポーツ、レクリエーション環境の充実を図る。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	市町村総合体育大会に関する事務（選手派遣委託契約等） 都民体育大会に関する事務（選手派遣委託契約、委託料等の支払）				大会に選手を派遣することができた。						
	効果指標	増加を目指す指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
		年度目標値		人	200		200		200		
		効果実績値		人	新型コロナにより中止		新型コロナにより中止		194		
		目標値設定の考え方		大会の中止に伴い減となった大会参加人数の回復に向けた中間目標として設定した。							
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	0		0		457,724				
財源		一般財源	円	0		0		457,724			
		特定財源（国・都・他）	円	0		0		0			
		（うち受益者負担）	円	0		0		0			
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.1		0.1		0.2			
		所要人数（再任用）	人	0		0		0			
		職員人件費（再任用以外）	円	838,000		825,000		1,632,000			
		職員人件費（再任用）	円	0		0		0			
事業費+人件費		円	838,000		825,000		2,089,724				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	市町村総合体育大会及び都民体育大会は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となったが、大会参加人数は平成31年度実績（計359人）より大幅な減となった。										

5	市民協働の取組		取組手法：④						
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）						
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点								
	特にないが、（特非）東大和市スポーツ協会との事務連絡等を通じて、改善点等があれば対応していきたい。								
6	分析・評価	(1)効果指標（評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか）							
		☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止となっていた各大会が再開されたことに伴い、滞りなく事業を再開することができた。					
		(2)費用対効果（評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか）							
		☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： （特非）東大和市スポーツ協会へ最低限の事業費で委託している。					
		(3)指標の達成状況の評価							
			(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性	A：効果指標・費用対効果が共に向上	
		(1)		向上	維持			低下	B：効果指標が向上・費用対効果が維持
		効果指標	向上	A	B			D	C：効果指標が維持・費用対効果が向上
			維持	C	E			G	D：効果指標が向上・費用対効果が低下
			低下	F	H			I	E：効果指標・費用対効果が共に維持
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。					F：効果指標が低下・費用対効果が向上				
					G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※				
					H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※				
					I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※				
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）									
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明： 選手派遣は（特非）東大和市スポーツ協会へ委託しているため、市の事務は最小限のものとなっているため、見直す余地はない。							
(5)休止・廃止した場合の影響（評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。）									
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明： 各大会に東大和市民の代表選手を派遣することができなくなることから、市内における各種スポーツ活動への負の影響は大きい。							
7	課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）							
		令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、選手の派遣を委託する（特非）東大和市スポーツ協会と情報共有を図り、事務が滞りなく進められるようにする。							
		(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと							
		新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、中止となっていた大会が3年ぶりに開かれたことから、事務がスムーズに執り行われるよう、東大和市スポーツ協会との情報共有を行い、大会への選手派遣規模等に影響を受けたものの、滞りなく事務を進めることができた。							
8	今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）							
		特になし							
		(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）							
		各種体育大会の運営支援においては、引き続き（特非）東大和市スポーツ協会と協力し、取り組んでいく。							

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	スポーツ振興事業費		部	教育部				係	スポーツ推進係				
	〔ロードレース大会事業〕		課	生涯学習課				課長名	岩野秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画	117 ページ				
	施策	施策4 ― 5 スポーツ、レクリエーション						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供						重要施策	☒ 該当			
		2	☒ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	39 ページ			
		3	☐						実施計画	☐ 該当			
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	3			
開始年度	昭和 40 年度 ☐ 不詳				行政報告書		555 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	東大和市ロードレース大会実施協定書												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		都立東大和南公園陸上競技トラック及び周辺道路をコースとして行う陸上大会。 小学4年生以上から高齢者まで幅広い年齢層が参加できる。 新型コロナウイルス感染症の影響により、2年間中止が続いていた。										
	対象：誰を、何を対象としているか						目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	東大和市ロードレース大会申込者数						定員数（R4は500人）に近い参加者数を集める。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか						活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	①大会公式HPでの周知 ③近隣学校へチラシの配布 ②市報・市SNS等で周知						定員数500人のところ、537人の参加があった。						
	効果指標	増加を目指す指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
		年度目標値		人	0（中止のため）		0（中止のため）		500				
		効果実績値		人	0（中止のため）		0（中止のため）		537				
		目標値設定の考え方		定員数（R4は500人）に近い参加者数を集める。									
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
事業費（実績）		円	0（中止のため）		0（中止のため）		2,352,164						
財源		一般財源	円					1,568,164					
		特定財源（国・都・他）	円					784,000					
		（うち受益者負担）	円					317,835					
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人					0.4					
		所要人数（再任用）	人										
		職員人件費（再任用以外）	円					3,264,000					
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	0（中止のため）		0（中止のため）		5,616,164						
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	総合案内テントがあると良いという意見があった。												

5	市民協働の取組		取組手法：②、③、⑦、⑧（羽村特別支援学校に参加協力依頼）				
	☒ 取り組んだ	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）					
	☐ 取り組まない						
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
市内の高校にボランティアを依頼することで、さらに市民協働を推進することができる。							
6	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☒ 向上	説明： 令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。令和4年度は定員数に近い参加者数を集めて開催することができた。					
	☐ 維持						
	☐ 低下						
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上	説明： 令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。令和4年度は実施することができた。事業費は、報償費、消耗品費、大会負担金、職員人件費である。					
	☒ 維持						
	☐ 低下						
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果				成果ランク (評価)	成果 ランク の 説明 と 方向 性
(1)		向上	維持	低下			
効果 指標	向上	A	B	D	B		
	維持	C	E	G			
	低下	F	H	I			
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。							
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）							
☒ 見直す余地がある	説明： 実行委員会において、大会記録計測委託の委託内容を精査することにより、大会負担金を削減することができる。						
☐ 見直す余地はない							
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☒ 大きい	説明： この事業は、施策の展開方向である「スポーツを楽しめる場と機会の提供」に寄与する事業である。スポーツによるレクリエーション活動を推進し、多くの市民がスポーツを楽しみながら、交流もできる取り組みが必要である。						
☐ 小さい							
☐ 不可能							
7	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）						
	令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じ、安全に大会を実施できるようにする。						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
課題	令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じ、かつ障がいがある方でも参加できる大会の実施を目指す。障がい者の視点にも配慮した大会運営ができるよう、改善点等を、参加実績のある特別支援学校等から確認し、反映させるようにした。						
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）						
8	新型コロナウイルス感染症の状況等に応じ、安全に大会を実施できるようにする。						
	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）						
	令和5年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を検討する。 参加者からのアンケート等で、大会実施に対する評価（満足度等）を得られる仕組みを検討する。						

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月14日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	スポーツ振興事業費		部	教育部				係	スポーツ推進係				
	[多摩湖駅伝大会事業]		課	生涯学習課				課長名	岩野 秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画	117 ページ				
	施 策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供						重要施策	☒ 該当			
		2	☐ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	39 ページ			
		3	☐						実施計画	☒ 該当			
	事業種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	3			
開始年度	平成 3 年度 ☐ 不詳				行政報告書		555 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	多摩湖駅伝大会実施協定書												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		多摩湖及び都立狭山公園をコースとした駅伝大会。 市のスポーツ振興のみならず、市の魅力や観光の一環としてもPRすることができる事業である。										
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか							
	多摩湖駅伝大会申込みチーム					できるかぎり上限チーム数（200チーム）に近い参加数で開催できるようにし、4年ぶりの開催となる大会を盛り上げる。							
	活動内容：どのような手段で行ったのか					活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか							
	①大会公式HPでの周知 ②前回参加チームへの案内送付 ③市報・市SNS等で周知 ④大会協賛企業への周知					200チームを上限に設定していたが、結果241チームの申込みがあった。							
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度					
		年度目標値	チーム	0		0		200					
		効果実績値	チーム	0		0		241					
		目標値設定の考え方	参加するチーム数は、設定上限数以上の申込みがあることを目指す。										
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
事業費（実績）		円	0（中止のため）		0（中止のため）		1,929,510						
財源		一般財源	円					1,286,510					
		特定財源（国・都・他）	円					643,000					
		（うち受益者負担）	円										
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0（中止のため）		0（中止のため）		0.4					
		所要人数（再任用）	人										
		職員人件費（再任用以外）	円	0（中止のため）		0（中止のため）		3,264,000					
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	0		0		5,193,510						
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	新型コロナウイルス感染症対策が引き続き行われている状態で準備を進めたため、大会開催を知った人から感染対策を行っているのか等の問い合わせがあった。												

5	市民協働の取組		取組手法：②、⑧（協賛企業の募集（市内企業等））					
	☒ 取組んだ ☐ 取組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）						
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点							
実行委員が年々少なくなり、固定メンバーになりつつあるため、新たな委員を迎えることも検討した方がよい。								
6	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)							
	☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下	説明： 新型コロナウイルス感染症により、3大会（4年間）大会の中止が続いていたため、この1年間、開催に向けて準備し、実際に開催できたことは対外的に効果があった。						
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)							
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下	説明： 昨今の値上がりにより、大会に必要な物品（参加賞、看板）及び設営費が値上がりしているが、必要なものを取捨選択し、購入するよう努める必要がある。						
	(3)指標の達成状況の評価							
		(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性		
	(1)		向上	維持			低下	
	効果指標	向上	A	B			D	B
		維持	C	E			G	
		低下	F	H			I	
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。								
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）								
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明： 多摩湖駅伝大会は、市予算と実行委員会予算で運営している。実行委員会予算は、協賛企業からの協賛金収入があるため、これを増やすことができれば、市予算の負担を減らすことができる。						
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)								
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明： 多摩湖駅伝大会は、市のスポーツ推進のみならず、市の魅力・観光をPRするのに格好のイベントであるため、当該事業を休止することは、市のPR材料を一つ失うことになる。						
7	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）							
	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、安全安心な大会の開催に向けて対策を行った運営方法を検討する。また協賛企業を増やしていくよう努力する。							
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと							
大会運営では、参加1週間前から体調をチェックする「健康チェックシート」の提出というコロナウイルス対策を行った。協賛企業については、新規開拓を試みたが、今年度は断られた。								
8	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）							
	大会運営については、生涯学習課職員が取り仕切っているが、事務内容を見直し、業者に委託できる部分を増やしていくようにする。 また、協賛企業は引き続き新規先の開拓等を続けていく。							
	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）							
協賛企業の新規開拓を行う。 実行委員の増員を目指す。								

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	スポーツ振興事業費		部	教育部				係	スポーツ推進係				
	〔市民体育大会事業〕		課	生涯学習課				課長名	岩野 秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画	117 ページ				
	施 策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供						重要施策	☒ 該当			
		2	☐ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ			
		3	☐						実施計画	☐ 該当			
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	3			
開始年度	昭和 44 年度 ☐ 不詳				行政報告書		555 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	東大和市民体育大会実施協定書 東大和市民体育大会実施要綱												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		東大和市スポーツ協会と共催し開催している大会。スポーツ協会に所属している各競技団体がそれぞれ大会を開催する。市は、スポーツ協会に負担金及びメダル・賞状の提供を行っている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、大会の中止が続き、2年ぶりの開催となった。										
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか							
	東大和市スポーツ協会に所属する団体					すべての団体が大会を開催できるようにする							
	活動内容：どのような手段で行ったのか					活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか							
	負担金の予算計上 メダル・賞状の予算計上					令和4年度は、スポーツ協会に所属する21団体のうち、16団体が大会を開催した。							
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度					
		年度目標値	団体	0（中止のため）		0（中止のため）		21					
		効果実績値	団体	0（中止のため）		0（中止のため）		16					
		目標値設定の考え方	東大和市スポーツ協会に所属する団体がすべて大会を開催できるようにする。										
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
事業費（実績）		円	0（中止のため）		0（中止のため）		1,002,282						
財源		一般財源	円					668,282					
		特定財源（国・都・他）	円					334,000					
		（うち受益者負担）	円					0					
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人					0.2					
		所要人数（再任用）	人										
		職員人件費（再任用以外）	円					1,632,000					
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	0		0		2,634,282						
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	2年ぶりの大会となるため、開催できてよかったという声が各団体から多くあがった。 一方で、コロナや久々の開催となることから、大会を縮小せざるおえず、少し盛り上がり欠けたという意見もあった。												

5	市民協働の取組		取組手法：①、③、⑤、⑦				
	☒ 取り組んだ	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）					
	☐ 取り組まない						
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
令和4年度は、当該事業について都のスポーツ補助金を申請した。これに伴い、各団体から大会の実施報告（開催時の様子を写した写真を含む）を終了後報告してもらうこととなった。以前は、各大会の実施の様子を把握していなかったが、令和4年度からは、各大会の様子及び各団体の意見をくみ上げることができるようになった。							
6	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上	説明： 2年ぶりに大会を開催することができた。令和4年度は、冬頃まで新型コロナウイルス感染症に対する社会の警戒が続いたため、多くの団体が手指の消毒、健康チェック、規模の縮小等の対策を行った。					
	☒ 維持						
	☐ 低下						
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上	説明： 交付した負担金は、ほぼ全ての団体で残金が残ることはなく、適切に大会開催に使用されている。一方で、市で作成したメダルや賞状は、余ることが多いため、適切な数量の購入に向けて団体と調整する必要がある。					
	☒ 維持						
	☐ 低下						
	(3)指標の達成状況の評価						
	効果指標	(2) 費用対効果				成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性
		向上	維持	低下			
向上		A	B	D	E		
維持		C	E	G			
低下		F	H	I			
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。							
(4)効率性評価(さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。)							
☒ 見直す余地がある	説明： メダル及び賞状については、できるだけ余りが生じないように、スポーツ協会を通じて団体と調整する必要がある。						
☐ 見直す余地はない							
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☒ 大きい	説明： 東大和市民体育大会は、市内のスポーツ団体の活動をサポートする事業であり、また昭和44年度から続いてきた歴史の長い事業である。団体によっては、年間の活動計画に市民体育大会の開催が含まれていることも考えられるため、この事業を廃止した場合、各スポーツ団体活動への影響が大きいと言える。						
☐ 小さい							
☐ 不可能							
7	(1)令和4年度に課題とした内容(「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記)						
	今後も新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、(特非)東大和市体育協会と情報共有及び連絡を適切に実施していく。 大会中止に伴い在庫となったメダル及び賞状については、再利用できるようにする。						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
	令和4年度から、各大会の実施報告(開催時の様子を写した写真を含む)を提出してもらうこととなった。これにより、以前は把握していなかった大会の様子が、分かりやすくなり、また各団体の大会に関する意見をくみ上げやすくなった。						
8	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)						
	可能な限り、スポーツ協会に所属している全団体が市民体育大会を開催できるようにする。 また、市民の市民体育大会への参加・観覧等について、積極的に周知をはかることも検討する。 メダル及び賞状の残部数をできるだけ少なくする。						
	(1)今後の取組(「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)						
今後の方向性	市民体育大会の開催について、大会を開催していない団体について聞き取りを行う。 市報だけでなく、市公式SNS等でも市民体育大会について周知することを検討する。 メダル及び賞状の使用数について、団体と調整し、必要数を購入できるようにする。						

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	スポーツ振興事業費		部	教育部				係	スポーツ推進係				
	[ふれあい市民運動会事業]		課	生涯学習課				課長名	岩野 秀夫				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり						第五次基本計画	117 ページ				
	施策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供						重要施策	☒ 該当			
		2	☐ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ			
		3	☐						実施計画	☐ 該当			
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	3			
開始年度	昭和 40 年度 ☐ 不詳				行政報告書		555 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	ふれあい市民運動会基本協定書												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		年齢・性別・障害の有無を問わず参加できる市民運動会。 平成30年度から4年間、荒天や新型コロナウイルス感染症の影響により、中止が続いていたが、令和4年度は、会場を屋外から屋内（市民体育館）に移し、かつ規模を縮小して実施した。										
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか								
	市民等				運動会に参加する市民等の人数を上限人数近くまで増やしたい。								
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか								
	チラシの配布（小学校、公共施設、近隣市等） 市公式SNSでの周知				午前の部・午後の部合わせて延べ900人程度想定していたところ、634人（延べ人数）の参加があった。								
	効果指標	増加を目指す指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
		年度目標値		人	0（中止のため）		0（中止のため）		900				
		効果実績値		人	0（中止のため）		0（中止のため）		634				
		目標値設定の考え方		運動会に参加する市民等の人数が参加上限人数にできるだけ近くなるようにする。									
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
事業費（実績）		円	0（中止のため）		0（中止のため）		1,344,874						
財源		一般財源	円					896,874					
		特定財源（国・都・他）	円					448,000					
		（うち受益者負担）	円										
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0（中止のため）		0（中止のため）		0.3					
		所要人数（再任用）	人										
		職員人件費（再任用以外）	円	0（中止のため）		0（中止のため）		2,448,000					
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	0		0		3,792,874						
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	体を使ってみんなで楽しめた、もう少し幼児や低学年の子どもが参加できる競技を増やしてほしいといった意見があった。												

5	市民協働	市民協働の取組	取組手法：②、⑧（地域活性化包括連携企業から参加賞（飲料）の提供）						
		☒ 取組んだ ☐ 取組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）						
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点								
大会の運営方法を大幅に変更したため、募集・受付等の流れに少し混乱が生じた。来年度以降のスムーズな運営方法を検討する必要がある。									
6	分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)							
		☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下	説明： 4年ぶりに開催したことに意義があった。 コロナ禍で数年できなかった、「皆と一緒にスポーツを楽しむ機会」を創出することができた。						
		(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を削減することができたか)							
		☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下	説明： 平成29年度開催時の予算額（約300万円）よりも半額の予算額で開催することができた。 地域包括連携企業等の協力をあおぎ、参加費等の費用を削減することができた。						
		(3)指標の達成状況の評価							
			(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性	A：効果指標・費用対効果が共に向上	
		(1)		向上	維持			低下	B：効果指標が向上・費用対効果が維持
		効果指標	向上	A	B			D	C：効果指標が維持・費用対効果が向上
			維持	C	E			G	D：効果指標が向上・費用対効果が低下
			低下	F	H			I	E：効果指標・費用対効果が共に維持
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。					F：効果指標が低下・費用対効果が向上				
					G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※				
					H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※				
					I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※				
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）									
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明： 開催及び運営方法を変えてから初めての開催であったため、今後事業内容も含めて見直す余地が大きい。							
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)									
☐ 大きい ☒ 小さい ☐ 不可能		説明： ふれあい市民運動会は、市民にスポーツを楽しめる場と機会を提供するものであるが、必ずしも「運動会」形式である必要がない。そのため、運動会自体を廃止したとしても、その影響は小さいと考える。							
7	課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）							
		事業見直しにより、ふれあい市民運動会については事業の縮小が決定したため、令和4年度以降は実行委員会の選定から内容等、すべてを一新する必要がある。							
		(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと							
競技会場、内容の一新及び縮小予算内で運動会を開催した。									
8	今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）							
		令和4年度で開催した内容をベースに、運営の改善をはかる。地域包括連携企業とのつながりをどう維持するか課題となる。							
		(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）							
会場の効果的な活用方法を検討する。地域包括連携企業の運動会における関わりを検討する。（令和4年度は飲料の提供のみであったが、提供のみで良いのか等）									

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	スポーツ振興事業費		部	教育部			係	スポーツ推進係			
	[車いすバスケットボール大会事業]		課	生涯学習課			課長名	岩野秀夫			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり					第五次基本計画	117 ページ			
	施策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション					複数施策	☐ あり			
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供					重要施策	☒ 該当		
		2	☐ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☐					実施計画	☐ 該当		
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）									
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	3	
開始年度	平成 27 年度			☐ 不詳		行政報告書		555 ページ	新規・継続	継続	
実施の根拠 (法令・要綱等)											
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		東京都車いすバスケットボール連盟と共催して、開催する車いすバスケットボール大会。年によって、選手権大会の内容が異なる。（令和4年度は天皇杯選手権大会（東京ブロック）大会として開催） 試合の合間に、連盟が講師となる車いすバスケット体験会を設けている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、平成31年度を最後に開催していなかった。								
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	市民等				できるだけ多くの観覧者及び体験会参加者を集め、障害者や障害者スポーツへの理解を深める。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	①市報等への掲載 ②ポスター等を市内公共施設に掲示 ③小中学校及び近隣学童への周知				大会観客数 119人 体験会参加者 17人（合計136人）						
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
		年度目標値	人	〇（中止のため）		〇（中止のため）		100			
		効果実績値	人	〇（中止のため）		〇（中止のため）		136			
		目標値設定の考え方	新型コロナウイルス感染症対策のため、市民体育館観覧席収容人数の1/2程度を目標参加者数とした。								
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	〇（中止のため）		〇（中止のため）		73,370				
財源		一般財源	円					37,203			
		特定財源（国・都・他）	円					36,167			
		（うち受益者負担）	円								
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	〇（中止のため）		〇（中止のため）		0.1			
		所要人数（再任用）	人								
		職員人件費（再任用以外）	円	〇（中止のため）		〇（中止のため）		816,000			
	職員人件費（再任用）	円									
事業費+人件費		円	〇		〇		889,370				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	アンケートの結果、不満と回答する方はなく、満足度は高かった。選手大会観覧者から「迫力があっておもしろかった」、競技体験者から「楽しかった」などの意見があった。										

5	市民協働の取組		取組手法：①、③				
	☒ 取り組んだ	☐ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）				
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
特になし。							
6	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上	説明： 令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。令和4年度は、目標参加者数に近い参加者数を集めて実施することができた。					
	☒ 維持						
	☐ 低下						
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上	説明： 令和3年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、中止となった。 令和4年度は実施することができた。事業費は、印刷製本費、職員人件費である。					
	☒ 維持						
	☐ 低下						
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評 価)	成 果 ラ ン ク の 説 明 と 方 向 性	A：効果指標・費用対効果が共に向上
(1)	向上	維持	低下	B：効果指標が向上・費用対効果が維持			
効果 指 標	向上	A	B	D	E		C：効果指標が維持・費用対効果が向上
	維持	C	E	G			D：効果指標が向上・費用対効果が低下
	低下	F	H	I			E：効果指標・費用対効果が共に維持
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。							F：効果指標が低下・費用対効果が向上
							G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※
							H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※
							I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）							
☐ 見直す余地がある		説明： この事業の実施に係る事業費は、印刷製本費・職員人件費であり、少ない事業費で事業を行っている。					
☒ 見直す余地はない							
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☒ 大きい		説明： この事業は、施策の展開方向である「スポーツを楽しめる場と機会の提供」に寄与する事業である。スポーツによるレクリエーション活動を推進し、多くの市民がスポーツを楽しみながら、障害者や障害者スポーツへの理解を深める取り組みが必要である。					
☐ 小さい							
☐ 不可能							
7	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）						
	障害者スポーツの普及啓発については、スポーツ大会と同時に行うことで、多くの参加者を得られることから、高い効果を見込めると考えられる。よって障害者スポーツ等の普及体験教室をなるべく大会に組み込むことを検討する。						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
東京都車いすバスケットボール連盟と協力の上、車いすバスケットボール大会を開催し、大会の合間で普及啓発事業として体験会等を実施した。							
8	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）						
	令和5年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況等に応じる。						
	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）						
参加者からのアンケート等、大会実施に対する評価（満足度等）を得られる仕組みを引き続き継続する。							

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	スポーツ振興事業費		部	教育部			係	スポーツ推進係			
	[学校体育施設開放事業]		課	生涯学習課			課長名	岩野秀夫			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり					第五次基本計画	117 ページ			
	施策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション					複数施策	☐ あり			
	展開方向	1	☒ スポーツを楽しめる場と機会の提供					重要施策	☒ 該当		
		2	☐ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☐					実施計画	☐ 該当		
	事業種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）									
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	1	事業番号	3	
開始年度	昭和 45 年度 ☐ 不詳			行政報告書		555 ページ		新規・継続	継続		
実施の根拠 (法令・要綱等)	東大和市立小中学校施設使用条例 東大和市立小中学校施設使用条例施行規則										
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		市内小中学校の体育施設（体育館・校庭）の開放に伴う事務。各学校へ施設の空き状況の確認、各学校の世話人に打合せ会を開催してもらうための通知・連絡、また市民体育館と承認書発行について調整等を行う。								
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	市民				スポーツ、レクリエーションのための活動場所として学校施設を貸出できるようにする。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	①各学校へ施設の空き状況の確認 ②各学校世話人へ打合せ会資料の送付 ③市民体育館指定管理者へ打合せ会結果の報告及び承認書の作成依頼 ④その他各団体への連絡・調整等				学校体育館、校庭、教室の貸出件数						
	効果指標	増加を目指す指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
		年度目標値		件	6,600		4,500		6,000		
		効果実績値		件	3,107		4,434		6,314		
		目標値設定の考え方		施設の貸し出し総件数。 コロナ禍における使用制限等に伴い減となった貸出件数の回復に向けた中間目標として設定した。							
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	1,818,590		2,284,389		2,225,351				
財源		一般財源	円	1,818,590		2,284,389		2,225,351			
		特定財源（国・都・他）	円	0		0		0			
		（うち受益者負担）	円	0		0		0			
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.2		0.2		0.2			
		所要人数（再任用）	人	0		0		0			
		職員人件費（再任用以外）	円	1,676,000		1,650,000		1,632,000			
		職員人件費（再任用）	円	0		0		0			
事業費+人件費		円	3,494,590		3,934,389		3,857,351				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を控えていた団体が活動を再開していく中で、施設の使用等について問い合わせが増えた。										

5	市民協働の取組		取組手法：③④				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）					
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
毎月、利用団体が集まり、翌月の施設の使用日時調整を行っているが、施設開放枠に対して使用希望団体が多いことから調整が難しくなっているケースがあった。							
6	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下	説明： 感染対策を行いつつ、通常どおり開放を行ったことから、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動を控えていた市民が活動を再開し始めており、貸出件数は回復傾向にあった。					
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下	説明： 事業費は人件費及び郵送料のみで現状維持となった。					
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評価) E	A：効果指標・費用対効果が共に向上	
	(1)	向上	維持	低下		B：効果指標が向上・費用対効果が維持	
	効果指標	向上	A	B		D	C：効果指標が維持・費用対効果が向上
		維持	C	E		G	D：効果指標が向上・費用対効果が低下
		低下	F	H		I	E：効果指標・費用対効果が共に維持
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。					F：効果指標が低下・費用対効果が向上 G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※ H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※ I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※		
(4)効率性評価(さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。)							
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明： 事務の合理化については、システムの導入など初期費用の予算確保、各学校との開放枠調整方法、団体同士が開放枠を調整する打合せ会の取扱いなどの課題がある。					
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明： 主に学校施設を使用している利用団体について、代替となる活動場所がなく活動の継続が困難となることから、影響は大きい。					
7	(1)令和4年度に課題とした内容(「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記)						
	令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら事務を進めていく。引き続き、学校体育施設開放事務の合理化を検討する。						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策による制限を緩和したことから、各団体が活動を再開させる段階で生じた様々な事象へ対応した。							
8	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)						
	小中学校、使用団体、指定管理者(市民体育館)との相互連絡や手続きを合理化するためには、システムの導入など初期費用の予算確保、各学校との開放枠調整方法、団体同士が開放枠を調整する打合せ会の取扱いなどの多くの課題がある。						
	(1)今後の取組(「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)						
小中学校、使用団体、指定管理者(市民体育館)との相互連絡や手続きを合理化するための新たな仕組み等について検討していく。							

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月14日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	体育施設運営費・新型コロナウイルス感染症対策事業費（繰越明許）		部	教育部			係	スポーツ推進係			
	[指定管理委託業務・新型コロナウイルス感染症対策事業]		課	生涯学習課			課長名	岩野 秀夫			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	4 心豊かに暮らせるまちづくり					第五次基本計画	117 ページ			
	施策	施策4 — 5 スポーツ、レクリエーション					複数施策	□ あり			
	展開方向	1	□ スポーツを楽しめる場と機会の提供					重要施策	☑ 該当		
		2	☑ 市民が利用しやすいスポーツ環境の整備					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	□					実施計画	☑ 該当		
	事業種別	□ 市単独 ☑ 補助対象 □ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）									
予算科目	会 計	一般会計	款	10	項	5	目	2	事業番号	1・2	
開始年度	平成 22 年度 □ 不詳			行政報告書		563 573 ページ		新規・継続	継続		
実施の根拠 (法令・要綱等)	東大和市体育施設等に関する条例、東大和市体育施設等に関する条例施行規則										
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		・主な市内体育施設（市民体育館、市民プール、桜が丘市民広場、上仲原公園野球場、上仲原公園テニスコート）について、指定管理者制度による管理・運営を行っている。 ・市内体育施設の維持管理のため、施設の老朽化や不具合に対応するための改修工事を行っている。								
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	市内体育施設（市民体育館、市民プール、桜が丘市民広場、上仲原公園野球場、テニスコート）				各体育施設等が利用者（市民等）にとって安全で使いやすい状態であるか						
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	①指定管理者と例会会議を行い、毎月の事業報告を踏まえて、施設管理面、運営管理面等の改善策を協議した。 ②定期点検の結果を踏まえ、必要に応じた施設・設備の補修又は改修を行った。				利用件数等の増につながった。						
	効果指標	増加を目指す指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
		年度目標値		①人 ②件	①117,086 ②15,874		①41,203 ②14,346		①38,432 ②15,658		
		効果実績値		①人 ②件	①39,241 ②13,663		①36,602 ②14,915		①66,370 ②16,398		
		目標値設定の考え方		利用件数等が前年度実績を上回れるよう利用し易い施設運営を行う。							
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	120,198,601		124,039,133		243,243,737				
財源		一般財源	円	99,147,573		115,329,755		134,270,089			
		特定財源（国・都・他）	円	21,051,028		8,709,378		108,973,648			
		（うち受益者負担）	円	188,028		151,608		152,648			
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.4		0.4		0.4			
		所要人数（再任用）	人								
		職員人件費（再任用以外）	円	3,352,000		3,300,000		3,264,000			
	職員人件費（再任用）	円									
事業費+人件費		円	123,550,601		127,339,133		246,507,737				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	すこやかスマイルバスをはじめ、体操教室、講習等の自主事業、その他イベントの開催等、多くの利用者からの評価は、概ね良好である。また、受付時間延長等、利用者の利便性向上にも積極的に取り組んでおり、高い評価を得ている。 令和4年度においては、施設の老朽化による不具合による利用の変更対応や新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策等、利用者 に理解を求める際も丁寧な対応をする等、高い評価を得ている。										

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：⑧				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（施設の清掃）				
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
東大和市体育施設等の指定管理者仕様書等に基づき、東大和市スポーツ協会をはじめとする社会体育活動を行う団体との協力、育成等を行うこととされており、指定管理業務のほか、自主事業等においても、積極的に取り組んでおり、概ね良好な関係が構築されている。							
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつある状態であり、令和4年度を令和3年度と比較するとスポーツ、レクリエーション活動場所と機会をより多く提供することができた。				
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつある状態であり、費用対効果としても向上している状況である。しかし、エネルギーコストの上昇により、電気料金及びガス代が高騰しており、指定管理者の努力では改善が難しい状況である。また、施設の老朽化と不具合に対応するための実施設計委託や工事費が大きく増大しているが、管理運営面での費用対効果は維持できていると評価した。				
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性	
	(1)		向上	維持			低下
	効果指標	向上	A	B	D	E	A：効果指標・費用対効果が共に向上
		維持	C	E	G		B：効果指標が向上・費用対効果が維持
		低下	F	H	I		C：効果指標が維持・費用対効果が向上
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。						D：効果指標が向上・費用対効果が低下	
						E：効果指標・費用対効果が共に維持	
						F：効果指標が低下・費用対効果が向上	
						G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※	
						H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※	
						I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※	
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）							
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明： 施設老朽化の速度が加速しており、施設の維持や運営に必要な断片的な改修・更新を優先せざるを得ない状況であるが、最新機器等の導入による高効率化を図る必要がある。					
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明： 市内で市民がスポーツ、レクリエーション活動を行える場所が限られている中で、大きな役割を果たしている市営体育施設の運営を休止・廃止することは、市民のスポーツ、レクリエーション活動を行う機会を著しく失うことに直結するため影響は非常に大きい。					
7 課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記）						
	施設運営等のソフト面については、利用者からの評価が高い一方、施設整備等のハード面については、施設の老朽化が進行している。大規模改修は、施設管理者として市の予算等の対応、小規模改修（50万円未満）は、施設運営者（指定管理者）が未然に危険防止できるよう対応しているが、築後30年以上となったことから、大規模改修が急務となっている。						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと						
市民体育館における屋上防水及び外壁改修や駐車場改修、桜が丘市民広場における防球ネット改修を行った。また、次年度の市民プール開設に向けて過装置改修や流水プール及び幼児プールの改修、プールサイドの改修などの工事を進めている。							
8 今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）						
	令和5年度は、老朽化が著しい空調設備更新、市民プール（流水プール・幼児プール等）の改修、（仮称）東京街道運動広場管理棟新築の各工事を行う。						
	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）						
スポーツ施設の老朽化は、スポーツ・レクリエーション活動を推進することに大きく影響する問題であり、喫緊の課題として、具体的な改善計画を検討する必要がある。							